

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方針

【平成25年11月6日実施】

平成24年度自己点検自己評価(平成24年4月1日～平成25年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		学校関係者評価委員の 評価点 (平均点)	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1	自己点検・自己評価項目総括 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)		
1 教育理念・目的・ 育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は 定められているか	3	学校運営に当たり、一番大切にしていることが、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができていく。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。 また、理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことにより、かなりの力を注いでいる。このことが、学園、学校の活性化につながっていると考える。	2.7	・素晴らしい教育理念を持っていらっしゃると思います。理念はとても大切で、この理念が教職員の方まで浸透し共有されることが重要であると感じました。 ・専門学校について、貴校の説明および本資料にて明確に理解できました。 ・OP教育を導入することにより、入学生全員が高い専門性を身に付け、必要とされる資格を取得できるように、きめ細かな教育を実践しています。 ・5年プランで目標が設定され、達成のための方策や組織も具体的に示されています。 ・理念の中に地域との融合を掲げていますが、是非そうしてほしい。 ・システムは本部で作られるが、運用は人が行うもの、システム構築と併せて人材育成をお願いします。 ・離職率が高いことから、1年生の時から就職への意識を高めたことが重要だと思います。学生が小さな成功を積み重ねることで自信を持つことが大切です。また、就職後のフォローの徹底とコミュニケーションを高める教育が更に必要と思われます。 ・地域での行事等を通して、学校と学生の現状を理解しております。結果、貴校の運営は地域からの信頼を得ており、そのことを高く評価いたします。
	1-2 学校の特色は何か	3	学校の特色は、「専門就職率を高めるための教育システム」である。開校以来、就職内定と専門就職率を高めるために、教育システムを構築し、実践してきた。その結果、内定率は97%(平成24年3月末時点)、退学率は1.6%にまで下がっている。5年後には、退学率0%を目指している。 学生は、挨拶が出来、自律し、プロ意識を持った社会人として業界に受け入れられ、活躍している。また、地域にも学生・教職員のボランティア、地域の方々向けイベントを通し、学生の規律正しさが理解され、信頼を得ている。		
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	学校の将来を組織運営面と教育・人材育成面の両視点から捉えている。常に5年先を見据えて事業計画を立て実行しており、将来構想を明文化し運営している。		
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化された定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するよう努める。	2.8	・スピード社会において、学校運営も社会に対応するスピード・システムが必要であると感ずります。その中、事業計画・運営方針も分かりやすく理解できました。 ・学校運営に関しては、母校なのでとても関心があります。10年後も20年後も100年先まで在り続けたいと思います。 ・専門分野からなる様々な委員会、会議を通していろいろな角度から実施、検証しています。 ・全体の学校運営から個別指導まで早期に対応できるように、システムが構築されています。 ・年度ごとの計画・方針を立て、それを実践し現状把握する組織体制が確立されています。 ・会議の種類が多い気がします。削減によって教職員にゆとりが生まれ、探究心が芽生えることだと思います。
	2-5 事業計画は定められているか	3	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。 明文化、文章化された定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。		
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3	意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。		
	2-7 人事や資金での処遇に関する制度は整備されているか	3	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は学園本部の採用基準のもと、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。 そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や資金決定が行われている。		
	2-8 意思決定システムは確立されているか	3	法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化された定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・課別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するよう努める。		
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	個別セクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考える。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力、情報一元化に成果が現れたことによる。ここで重要なことは、何のために情報システム化をしているのかという点である。 入学前、在籍中、卒業後の流れの教育システム(PCP教育システム)の中で、学生一人ひとりの情報を一元管理し、学生の様々な支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活用し、適切な助言ができることで、専門就職への内定獲得や資格合格に結びつけることである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。		
	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に関連する法制度や業界の人材ニーズを鑑みて、正しく方向付けられている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査を毎年秋半に行い、5年後の業界ニーズに確実に応えられる教育目標、育成人材像を設定している。		

<p>3 教育活動</p>	<p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>3 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に関連する法制度や業界の人材ニーズを鑑みて、正しく方向付けられている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため、業界調査、学科調査、競合校調査を毎年秋季に行い、そこで現れる業界ニーズに確実に応えらるる教育目標、育成人材像を設定している。 また、各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また、学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められている。</p> <p>3 カリキュラムの編成に関しては、4つの教育システム(POP教育システム、OP教育システム、MMPプログラム、タワー型カリキュラム)によって、体系的な形を保たれている。 上記より、学科のスタート(入学前)からゴール(卒業後、就職)までに必要な学習内容と学習期間、及び学習ステップを勘案したカリキュラム体系を構築できていると考える。</p> <p>3 学科の各科目は、MMPプログラムによって、その内容、関連性から適正な位置づけを行うことができている。</p> <p>3 開校より職業教育に取り組んできており、その中で、キャリア教育をカリキュラムに常に反映させている。 学校法人として、より明確にキャリア教育への取り組みを打ち出したことを受け、現状の学生に合わせたキャリア教育の推進を行っている。 また、学科ごとのポートフォリオの作成を行うことで、今後の学生に合わせたキャリア教育の実践を目指している。 更に、学校法人のキャリア教育委員会による研修を通して、教職員のスキルアップを進め、より学生個々に合ったキャリア教育を実践できる土壌を築いている。</p> <p>3 授業アンケートによって学生からの、オープン授業によって講師からの授業評価を行っている。また、授業評価の視点として、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。</p> <p>3 学科の育成目標を達成するために、講師が指定規則に定められた要件を満たし、かつその分野のスペシャリストであること、また、同時に講師要件を満たしていることを講師採用において重点を置いている。採用決定の講師は、講師会議、科目連絡会を通して、授業運営に対する情報の共有化、成功事例の共有、また、学校側の考え、希望する方向性、養成したい学生像を共有し、問題・情報の共有、解決につなげている。</p> <p>3 教職員の質的向上は必須条件であり、学校と学園でそれぞれ研修を実施している。</p> <p>3 成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。</p> <p>3 資格取得のための指導体制としては、対在学生、対卒業生ともにシステムとして形になってきている。特に、国家資格である美容師国家試験に関しては、独自問題集の作成、グループ内統一模擬試験、特別講座の開催、模擬試験実施による、低学力者対策など、きめ細かい支援が整っている。 目標に達していない一部の資格に対して、今後合格率を向上させるための更なる対策を講じていく必要がある。</p>	<p>人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの再構築に専断的に関わるファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC)が組織されており、定期的なFDC会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。 また、目標と段階ごとに明示し、学習のステップを学生に常に理解させている。このため、目標への動機付けを行いやすい。</p> <p>特に専門知識・技能(プロフェッショナルプログラム)については更に科目群(学科の課題となるキーワード)に分け、それぞれに対応した科目を位置付けている。 学科長、ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター(FDC)が主としてコーディネートしている。 それを受けて、学園の諮問機関にプレゼンをし、素案の内容を精査し、実行カリキュラムの完成とせる。</p> <p>シラバス作成に力を入れている。 ①講義概要 ②科目目標 ③定期試験(日時・実施内容・評価基準・評価方法)④使用教科書 ⑤使用教材 ⑥到達目標と授業内容(各回) ⑦教科書・使用教材(各回) これらの項目を確実に記載することで、学生に授業内容がイメージできるシラバスになるようにしている。 このシラバスは学科に所属する専任講師とシラバス作成講師が相互にチェック機能を持って作成しており、単に授業を担当する講師が作成したものとは違い、コンセプトの統一感や他講義との関連性において整理されている。 また、シラバスの中ではコマの授業内容の説明は大枠になっており、授業ごとにコマシラバスという形で、その日行う授業内容をより細かく明示した様式を配布し、授業に取り組みさせている。コマシラバスでは、その授業での目的、講義内容、授業内容の確認のために行う小テストのポイントを明記している。 シラバスを詳細部分まで抽出して作成し、学生・講師が活用することで、学生及び講師も科目の関連性を意識しながら授業を進める体制が出来ている。</p> <p>アンケート内容は下記の4区分16問に自由意見を加えた形式としている。 区分1) 授業内容 5問 区分2) 授業手法と教員の行動 5問 区分3) 教育効果 3問 区分4) 学生の行動 3問</p> <p>講師への共有資料 ①教育指導要領 ②学年暦 ③講師別時間割 ④科目シラバス ⑤グループ校教育改革 ⑥キャリア教育ロードマップ</p> <p>教員研修内容(一部) ・カウンセリング研修 ・キャリア教育カウンセラー研修 ・国家試験対策研修会 等</p> <p>各科目、定期試験および小テストでAからEの5段階評価を行う。 A・B・Cを合格とし、D・Eを不合格とする。 A(優) (100~80点) B(良) (79~70点) } 合格 C(可) (69~60点) D(不可) (59~0点) } 不合格 E 受験資格喪失 科目の評価は、定期試験(80点)・小テスト(20点)合計100点満点にて評価する。 科目の評価が不合格(59~0点)の者もしくは私的事由により欠席した者については、再試験を行い、その評価は最高Cとする。</p> <p>資格取得のサポート体制としては、学科ごとに若干異なるが、ほぼ全ての資格に対して対策講座を取り入れている。グループ4校のスケールメリットを生かし統一模擬試験などを実施している。</p>	<p>コミュニケーションツールであると感じました。 私が在籍していた時には、ポートフォリオ作りなどはなかったのだから嬉しいと思います。 自発的に自分の夢ややりたい事を描き出し、実現できる学生を社会に送り出すことを願います。 ・建学の理念をはじめ、基本的な考え方を学生、講師等関係者すべてに周知させています。 ・養成目的・教育目標を明確にし、目標へ向かって行動できるプログラムを構築し、養成目的・教育目標達成のための様々なカリキュラムが組み込まれています。 ・業界のニーズや他校の動きなどを察知し、より質の高い即戦力となり得る人材の育成に力を入れていると感じます。 ・学生の能力向上は、指導者によるところが大きいと考えます。貴校では、指導者の資質向上のために詳細な育成計画を立てており、学生に対してもポートフォリオ等を通して現状把握されていることは評価に値します。 ・D・E評価者に対する手厚いサポートをお願いします。 ・生徒の質を高めるためには、指導者の質を高めることが重要です。そのための職員研修が充実しているので素晴らしいと思います。</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>2 就職率に関しては、開校から昨年度まで100%を維持し、実績は申し分なく就職指導体制は高いレベルであると認められる。しかし、今年度(平成24年度)3月末時点では97%に留まっている。 就職率は開校以来90%を超える数値で、高い水準を維持しているが、専門就職率は学科間格差が目立っている。就職者率・専門就職率向上が今後の課題である。</p> <p>3 各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。</p> <p>3 専門学校校の退学者率の水準が一般に10~15%と言われている中で、本校の低減度合はかなり高いレベルにあると思われる。</p> <p>3 卒業生の社会での活躍は、独立開業や各店舗マネージャーなど年々大きくなってきている。結果、それが求人票の獲得にも繋がっている。 今後は卒業生の活動を確実に学校として把握すること、在校生の活躍の場を広げていく取り組みが必要と考えている。</p>	<p>キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。また、キャリアセンターの目的は ①入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう。入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ②在校生に対しての就職支援・在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援・卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、同窓会および再就職支援を実施している。</p> <p>グループ校の同学科で構成される教育部署を設置し、100%合格のための仕組み作りを行っている。また、通常授業以外に放課後や土・日曜や長期休暇期間(夏期休暇、年末年始休暇)を利用して、模擬試験や特別対策講座を実施している。</p> <p>15日ごとに、退学者数、長欠数、2回欠席者数および問題学生(上記の問題分類にあたる学生個々)の状況を記載した書類を会議で確認し、学科、クラス、個人個人での問題解決のための対策を練る。</p> <p>【卒業生が開業したサロン】 HAIR MAKE E'LOGE(福岡)、Hair make amulet(福岡)、美PEACE(大分)、Jill Vesta~Hair Design~(佐賀)、POLA THE BEAUTY(福岡)、Votani(福岡)、Coco hair design(福岡) 他多数</p>	<p>・就職率・退学率の低減等に向けての貴校の取り組みを高く評価します。 ・就職する上で国家試験対策の強化は大変重要な課題であると思います。是非、合格率100%を達成できるようお願いします。 ・2年間の教育成果は大変素晴らしいと思いますが、気になるのは1年間での就職率の高さです。1年間は締めさせぬよう先生方からの今以上のフォローをお願いします。 ・就職内定率・国家試験合格率ともに高いレベルであると考えます。 ・国家試験・就職・中途退学者実績に加え、卒業生の就職についての取り組みまでなされている点は評価に値します。特に国家試験は卒業する学生全員が合格でない学校としての責務を果たしたことにほならないと思います。大変ですがご尽力下さい。</p>

5-23	就職に関する体制は整備されているか	2	就職率に関しては、開校から昨年度まで100%を維持し、実績は申し分なく就職指導体制は高いレベルであると思われる。しかし、今年度(平成24年度)3月末時点では97%に留まっている。 また、就職率は開校以来90%を超える数値で、高い水準を満たしているが、専門就職率は学科間格差が目立っている。就職率・専門就職率向上が今後の課題である。	【学内企業説明会の実施】 企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼び、面接試験などを行ってもらう。 【履歴書作成+面接指導】 自己PRと志望動機について、学生と相談しながらより魅力的な内容となるよう、徹底指導を実施。また面接本番に向け、学生は職員から面接指導を受けることを基本的に義務化している。そして、面接指導をした職員は、各学生のウークポイント克服に向けて、他の職員に情報を共有し次の面接練習に活かす工夫をしている。	・就職率を高めることは重要ですが、就職させることが目的ではなく、より良いマッチングの為の情報収集や業界とのコミュニケーション・セリング等に力を注いで頂けると、生徒さんの就職後のキャリアをなくし、離職率の減少に繋がるとは思いません。 ・学園グループ内に、専門のクリニックを有するなど組織体制は素晴らしいと思います。 ・課外活動での英語サークルなど、私が在学時にもあって良かったです。 ・卒業生のフォローを徹底して頂きたい。 ・入学前からオープンキャンパスを何度も行い、一人ひとりに学校・学科について事前に説明するなど、入学前から卒業後までの個別支援体制が充実していると感じます。また、卒業後の再就職支援など生涯就職支援システムを導入しているところが素晴らしいと思います。 ・キャリアセンター、サポートセンターを設置していることや教職員にカウンセラー資格を取得させるなど整備された環境にあると思います。 ・卒業後の返済のことを鑑みて、奨学金を借り過ぎぬようご指導下さい。
5-24	学生相談に関する体制は整備されているか	3	遊慶トータルサポートセンター(JTSC)を設置し、①精神面②学習③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。全教職員が「JESCCカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。学生相談体制はかなり高いレベルであり、それが、近年の退学率減少に結びついていると考えている。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会&カウンセリング資格制度を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織(遊慶教育科学研究所)が主催する「JESCCカウンセラー資格」の全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。 心理学/カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズになっている。	
5-25	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学生の経済的側面の支援は、かなり高いレベルで出来ていると考えている。特に、グループ内資格(ファイナンシャルアドバイザー(FA))を取得したスタッフによる学費相談会の実施によって、事前に学費相談を受けられ、資金のやり取りをアドバイスできている。 参加する保護者も多く、相談内容が難しくなっているため、その対応をする担当者もスキルアップが必要と考える。	【学費納付制度】 この制度は、日本学生支援機構の予約採用を利用し、奨学金の採用決定月額で授業料の分納支払いをサポートするシステムである。毎月本人の指定口座へ振り込まれる日本学生支援機構奨学金を授業料に充当している。 【各種特待制度】 ・自己推薦入試・学校推薦入試・一般入試対象の特待、指定校特待制度がある。	
5-26	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	「慶生会クリニック」や「遊慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理を担っており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。 「慶生会クリニック」は専科・産科の2科があり、学校からも近(寮などから通う)一人暮らしの学生も利用しやすく、健康管理費の中から支払いが行われるので、安心して受診できる体制が、かなり高いレベルで機能していると考えている。 また、一人暮らしをする学生についても、学生寮や生活アドバイザーが学生の生活面をみている。どの組織も学校と(特に担任)連携を取り、学生の変化などには気を配り注意している。	【一人暮らしセミナー】 一人暮らしの学生を対象に、毎年入学直後に授業面についてアドバイスすること、また、防犯や悪徳商法対策などに関する基礎的な知識を持ってもらうためのセミナー。 朝食を食べないなど、後述の腐りがちな学生が近年増えていることから、料理の苦手な学生でも手軽に(電子レンジなど)調理できる料理を紹介することで、健康管理をしてもらうため、姉妹校の小笠原副校長(料理研究家)に依頼し、試食も兼ねて実施している。学生は、栄養に関する知識や防犯対策について学べる他に、地方出身者同士、新たな友達をつくる機会でもあり、大変好評である。	
5-27	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2	4団体が学友会活動の一環としてサークル活動を行っている。 それぞれ定期的に学生主体で活動しており、各部に顧問(世話役)として教職員が関わっている。	・英語サークル ・ダンスサークル ・ショーチーム ・学生スタッフ	
5-28	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	学園で学生寮を完備しており、生活環境の整備や学生の支援ができる体制ができています。 学校では入学直後「一人暮らしセミナー」を実施し、担任面談を実施したり、状況によりカウンセラーのカウンセリングを受けている。	【一人暮らしセミナーの開催】 年度の初めには、新しく入学する学生向けに「一人暮らしセミナー」を開催している。一人暮らしを始めるにあたり博多警察署からは、自分を守る意味での防犯や、近年多くなっている悪質商法に巻き込まれないための講話などをしていた。また防災訓練も毎年実施し、消防署の方には、火災の怖さなどを講演していただいている。 【一人暮らしを学ぶ学生の食事の面をフォローするため、電子レンジでできる料理教室をこの時期に実施している。栄養の偏りを防ぐため手軽に出来る料理を、姉妹校の小笠原副校長(料理研究家)から、実際に電子レンジなどを使って実演していただいている。	
5-29	保護者と適切に連携しているか	3	入学前、入学式、在籍中、卒業式時の保護者会の開催は、学校として重要な学生支援のプログラムと考えている。学科ごとに実施回数・回数は異なるが、保護者との連携、協力体制はおおむね出来ていると考えている。	在学中は学科特性を鑑み、学科別の保護者会を定期的に開催。 プライバシーや個性にも配慮し、希望者には当日もしくは別日に予約制による個別保護者面談も実施。	
5-30	卒業生への支援体制はあるか	2	卒業後の就職や転職の支援は整備されている。また、卒業生が集まるさまざまな機会が増加している。その機会は学校にとっても業界情報の収集に役立つばかりではなく、現場の実情を知りたい機会にもなり、卒業生にとっては互いに刺激となり、資格取得に向けた意欲の向上に役立っている。 同窓会組織を使ったネットワーク作りは、今後その業界に卒業生を送り込む学校として大変重要だと考えるものの、まだ十分な機能を果たしていない。同窓会を活かした、更なる求人数の増加や教育の拡充が期待される。近年、現場で経験を積み要件を満たした卒業生が講師に採用されるなど、「卒業生」の重要度は益々高まり、継続的なフォローアップ体制の実践を整備したい。	【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。	
6-31	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。 各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全て満たす環境として、認可を得ている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。	・教育環境について、問題は全くないと感じます。 ・国際講座または海外研修など質の高い実習の場を提供するとともに、業界情報・業界研修などを定期的に行い実践教育も充実しています。 ・在学の時の海外研修が、現在の就職に繋がったことに本当に感謝しています。 ・教育環境としては申し分ないと思います。 ・在学生の地域活動への更なる積極的な参加をお願いします。
6-32	学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	学外実習(現場実習)を点で捉えるのではなく、線(フロー)で捉えている。そのため、実習の前には実習前教育と実習後教育を実施しており、実習前教育では、実習に臨む姿勢と注意点について、また実習後教育では実習後の振り返りと今後の課題設定について学生に考えさせている。 海外研修は内容の充実度合いが非常に高いことから、全学生に参加してもらいたい研修ではあるが、費用も高いため、本校では希望者を募り研修を実施している。不参加学生に対しては、国内国際性講座を開講し、単位を取得して貰っている。	
6-33	防災に対する体制は整備されているか	3	防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ避難手順や対応方法を指示し実施している。また、教急時における知識の習得と意識付けは出来ている。	防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。 【AEDの検査設置】 校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計1台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。また教職員に、使用方法の講習済みである。また、教職員向けに心臓蘇生法の講習を実施している。	

7	学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	3	学生募集活動は、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則をもとに、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	我々は学生募集活動を入学期教育と位置づけしており、受験生の①職業適性の発見・開発②目的意識の開発の支援をしていく重要なプログラムであると考えている。	2.8	・美容師の人材発掘は、これからの美容業界の最重要課題だと考えます。そうした意味での広報活動も重要であると考えます。 ・ホームページ等で適切に情報を伝えられていると思います。
		7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	教育成果としての就職実績はまさに本校の特色である。本校への入学をきめた学生の入学決定要因の一つに就職実績が挙げられる。そのことから、就職実績は、学生募集に大いに貢献したと考えている。また、卒業生の活躍も学生募集には貢献している。 就職実績は単に、数字や企業・施設名だけではなく、職業がイメージできることが大切である。そのため、就職実績は、卒業生の活躍している姿や実際のインタビューに基づいて必ず掲載するようにしている(入学案内、各種進学媒体、ホームページ)。 資格取得についても、なぜその職種に必要なのかを、卒業生の活躍と重ね合わせて告知することで、分かり易くしているのではないかと考えている。	専門就職実績と専門資格取得実績の打ち出しは強化しており、募集上の効果は高い。 資料請求媒体誌・入学案内・ホームページ・説明会と一貫性をもって、上記実績を強みとする広報展開をしている。		
		7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面接の比重を多くしている。 結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。		
		7-37 学納金は妥当なものとなっているか	3	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。 また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に対しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。		
8	財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成しているため、厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはならない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。	指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	3	・全く問題ありません ・5年間の中長期的な事業計画が作成されており、個人的にも勉強になります。
		8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3	予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているのが妥当な方法と考えている。 5年を見越した中長期的事業計画を毎年立て、その中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会、評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に近い予算編成になっているものと考えている。学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。	当初予算一四半期予算実績対比一修正予算一決算という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
		8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	3	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えている。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整備に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
		8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	3	財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9	法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、平成18年度で完全に整備された。 また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。	監事による毎年の監査に際しては、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	3	・素晴らしい取り組みがなされていると考えます。 ・学校関係者評価委員として、今後も色々と協力させて頂きます。
		9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(研修制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。		
		9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3	平成17年には、自己点検・自己評価についての方針が常務会に打ち出され、その方針のもと、平成18年12月委員会を立ち上げる。私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、本校の自己評価を真摯に行うことを確認。平成19年度以降の事業計画にも反映し、教職員への理解に努める	平成18年12月に、学校長・事務局長・教務部長・学生サービスセンターからなる委員会を学内に設置した。		
		9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	2	毎年、自己点検・自己評価を実施しているが、公開を行っていない。 自己評価及び学校関係者評価について討議をした結果、平成25年度から学校関係者評価の実施に向けた取組みを行なうことと合わせて、自己点検・自己評価は原則として全文公開することが決まった。	特になし		
		10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2	学園をあげて、地球温暖化について取り組みを行っている。	地球温暖化対策の中で、学生への啓蒙活動としてポスターを掲示している。 また、学園として「チームマイナス6%」に登録していた。現在は、「チャレンジ25キャンペーン」にむけて、教職員に対してはクールビズとウォームビズを徹底している。		
10	社会貢献	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	学生のボランティア活動に関しては、現状学校主導でサポートしている部分が主である。 今後、全ての学生が、ボランティア精神を持って、主体的に活動できるような教育プログラムを構築する必要がある。	24時間テレビ・大浜地区公民館・老人ホーム等でのボランティア活動を行っている。	2.5	・学生時代の社会貢献に対する取り組みは、今後ますます重要であると考えます。 ・地域から最高・最良の評価をしたいと思います。 理由は、 ①近隣清掃(たばこの吸殻等の清掃) ②通学路の交通安全対策、ガードマンの配置 ③挨拶指導の徹底 ④地域のイベントや講習会等への積極的な参加・協力 その結果、地域と良好な関係を築いています。
		11-48 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	3	一部の国や地域には現地事務所を設け、留学生の受け入れや諸外国の教育機関からの海外研修や特別授業等の受け入れに関する調整機関として整備している。 学園として教育提携をしている教育機関の教職員視察や教育内容についてのディスカッションを実施している。 留学生受け入れにあたり、滋慶EAST国際教育センターを設け留学生の在留資格取得のサポートをはじめ、在学中の生活サポートを行っている。 また、学生の国際教育の充実のために研修先教育機関等との教育提携を行い、毎年プログラムの見直しを行っている。	【海外研修先】 (フランス) ・Serge Louis Alvarez Academie ・Wella Studio ・Lycee Florian校 ・フタバ・ウェディング パリ支店 ・Ecole Elegance Gontard International 他		

◆学校関係者評価委員の御意見に基づく改善策

<p>(最重要課題)1年以内の早期離職を防止する。 そのための改善策として、 ①教務部長・FDC・学科長を中心に、「専門教育」「キャリア教育」を見直す。(教育システムおよびカリキュラムの見直し) ②教職員一人ひとりの学生対応力を向上させる。(年間フォローで担任研修を実施) ③キャリアセンター→担任が連携し、学生一人ひとりに合った就職先の紹介を行い、ミスマッチを防止する。(教職員向け業界研修を実施)</p>
--